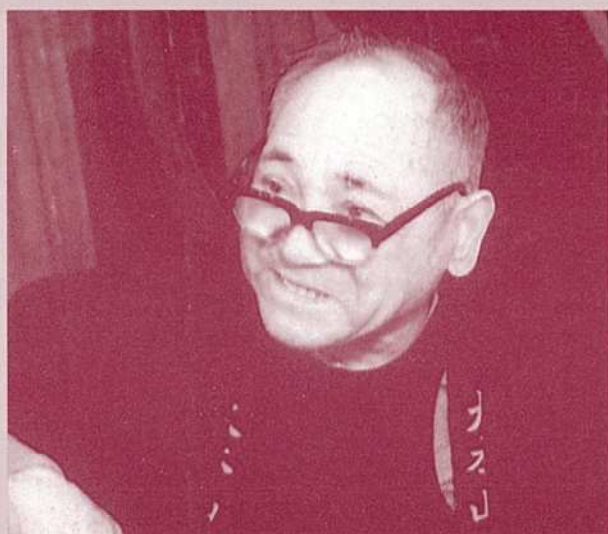


# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



や ね かざり  
屋 根 鋳

かな い こう さく  
金 井 幸 作

(平成元年度作品)

16mm映画・ビデオ  
カラー・17分

## プロフィール

住所 荒川区東日暮里6-42-10

明治44年(1911)、埼玉県熊谷市生まれ。

昭和62年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

14歳のとき熊谷の大島音七氏に弟子入り。昭和7年、屋根鋳職人として上京。戦後、東日暮里に移り、区内では日暮里の諏方神社や養福寺、南千住の素盞雄神社、ほかに松戸市の本土寺(通称あじさい寺)、江戸川区の安楽寺など数々の寺社の屋根を手がけた。

「若い人を育てたい、自分のこのワザを引き継ぐ人が出てほしい」と願いつつ、東京都板金高等職業訓練校で後継者の育成につとめている。

金井さんには良き後継者、四男・稔さんがいる。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

## 用具・工具

たがね（打たがね、矢たがね、切りたがねなど、ほとんどが自分で削り加工したもの）、イモ槌、金槌、えぼし（金槌の一種）、金切鋏、金床、鉛の台、ハンダ付の道具、釘、木炭、わら、銅板（厚さは1ミリ未満）、カーボン紙、模造紙、硫酸、クレンザー（手あかをとる）。

## 工程 — 鬼板の場合 —

- (1) 「鬼」の原図を模造紙に画く。
- (2) カーボン紙で原図を銅板に写す。
- (3) 輪郭を鋏で切る。
- (4) 矢たがねで「打ちこむ」(輪郭の部分のみ「打つ」)。
- (5) 「焼鈍」(やきなまし)。銅板を火で焙って加工しやすくする。銅板が割れるのを防ぐためでもある。
- (6) 金槌、イモ槌で「打ち出す」。
- (7) 再び「焼鈍」する。
- (8) 金床で「ならす」。鉛を敷き銅板を金槌や木槌で鍛えてゆく。
- (9) 「八双」づくりが終ると、鬼の面をたがねでたたく。(鬼の顔は口、鼻、目の順に下の方から打ち出す)。
- (10) 鬼の角づくりと取付け。
- (11) ハンダで「冠」や「鋸」を取付ける。
- (12) 最後に薄い塩酸で洗い、磨き粉で磨き、水洗いをした鬼の面を取付ける。



(用具、工具)



(タガネで打ち込む)



(完成した屋根鋸の鬼)

利用される方は…………… ☎ 891-4349

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。